

図画工作科 学習指導案

第6学年

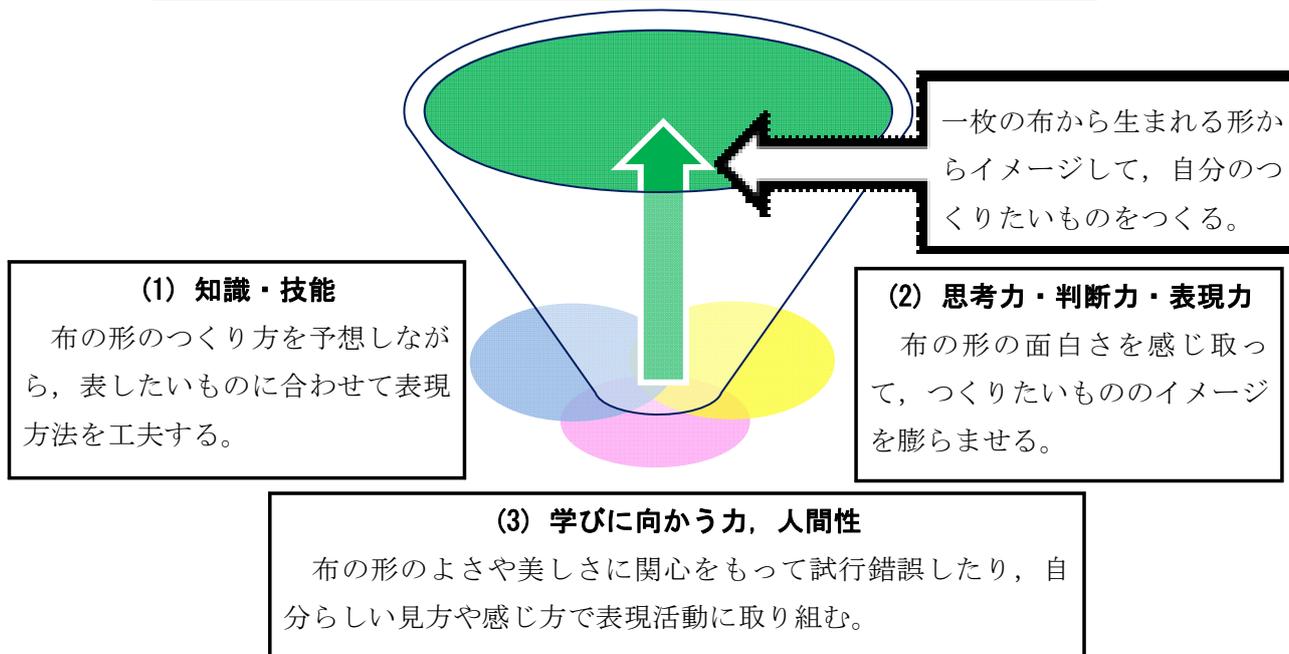
I 題材 一瞬の形から

II 考察

1 教材観

(1) 育まれる主な資質・能力とその関係

形や色、イメージなどの視点を持ち、生活や社会と関わる資質・能力



(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現（2）

感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見つけて表すこと。

イ 形や色、材料の特徴や構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、表し方を構想して表すこと。

ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表現に適した方法などを組み合わせて表すこと。

(3) 本題材と教材の価値

本題材では、液体粘土で固めた布の形を見立てたり、形を生かしたりしながら、想像を広げて立体に表す学習を行う。その価値は以下のとおりである。

本題材は、布の形を予想したり、試したりすることを繰り返しながら、自分なりに気に入った形や美しい形、面白い形を探していくことができるものである。

まず、6年生では、これまでの立体表現の経験から、形の特徴を生かした効果を予想すること

ができるため、自分のイメージに近付けたり、自分のイメージを変えたりして、自由に自分のイメージに合わせて色の塗り方や、見せ方を工夫して表すことができる。

次に、1枚の布が平面から立体になる過程やできた形の多様性から、自分の予想した形と偶然できた形を比べたり、選んだりしながら、布の形を多様な角度から見て、見立てたり、形のよさや面白さを見付けたりするなどして、イメージを膨らませることができる。

さらに、布の形のよさや面白さに関心をもって試行錯誤したり、多様な表現の意図や工夫を認め合ったりすることで、自分らしい見方や感じ方で表現活動に取り組むことができる。

本題材で扱う教材の価値は、以下のとおりである。

本題材では、液体粘土と1枚のタオルを主な教材として扱う。液体粘土は5年「だれも知らない世界への旅」で平面作品のマチエールの変化を出すために使用した経験があるものの、それ自体で立体作品をつくるのは初めてである。そのため、今まで扱ってきた材料ではできない形のよさや面白さに気付くことでイメージを膨らませたり、イメージに合わせて新たな表現方法を試したりすることができる。また、液体粘土を含んだタオルの形がそのまま保存される面白さを感じ取り、平面から立体へと変化していく過程に興味をもつことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、6年「ぼくたち私たちのモニュメント」での、卒業を前にした自分たちの思いを基に主題とデザインを考え、これまで学習したことを総合して表し方を工夫し、卒業記念碑として抽象的な形を平面や半立体的に表す学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「12年後のわたし」で、将来の自分について想像し、その姿を工夫して粘土で立体に表す学習に取り組んできた。この学習の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- (1) 粘土や針金などの経験した材料の扱い方を工夫して、芯材の形や材料の組合せ方などを工夫することができる。このような子どもたちが、経験してきたことを生かして予想したり、試したりしながら工夫して表現することができるよう、布の形をつくるための材料コーナーを設定する。
- (2) 将来なりたい自分に思いを巡らせ、その様子を表すために、形や色、材料などを思い付くことができる。このような子どもたちが、形を予想したり、形のよさや面白さに気付いたりしながら、イメージを膨らませることができるよう、布の形を試す活動を設定する。
- (3) 将来の自分について想像することを楽しみ、その姿を立体に表すことに取り組むことができている。このような子どもたちが、自分らしい見方や感じ方に気付くことができるよう、表現活動の節目に、それまでの表現活動を振り返る活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画

Ⅴ 共通事項 ※Ⅲ・Ⅳ・Ⅴについては、指導と評価の計画参照

Ⅵ 本時の学習

- 1 ねらい 布のつるし方やかぶせ方を試しながら、気に入った形を見付ける。
- 2 準備 ダンボール箱 洗濯ばさみ 棒 針金 紐 ペットボトル、瓶などの容器 風船
ビニール袋 布（タオル） 液体粘土
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1枚の布でも、色々な形が生まれて面白いな。 ・ 5年生の時に使った液体粘土で、面白い形をつくることができそうだな。早くつくりたいな。 <p>2 布のつるし方やかぶせ方を工夫して、気に入った形を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 風船にかぶせたら、丸い形ができたよ。でも、もっと緩いカーブがつかれないかな。 ・ 友達は布の角を持ってもらって垂らして水の流れみたいなカーブをつくっているな。 ・ 友達と布の四隅を持って角度を変えたらふんわりした形ができたよ。 ・ 顔を横にして見ると、友達の持っている布の角を少し上げた方が、いい感じのカーブの形ができそうだよ。 <p>3 自分の思い付いた形をつくれるよう、ダンボールや形をつくる材料を加工する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 布の四隅高さを変えながらカーブをつくって跳んでいく感じにしたいな。 ・ 布の四隅の高さを変えるには、もう少し、箱の高さが必要だな。 ・ 上から見たときと横から見たときの形の感じが違って見えるな。どうしようかな。 ・ 友達は風船も使って、連続するカーブの向きを変えているな。風船の大きさを変えれば自分の形もっと面白くなりそうだな。 ・ 最初のイメージと少し変わったな。カーブを一つにするか連続させるか迷うな。 ・ やっぱり風船はやめて、一つのカーブでつくろう。もっといいカーブの形になるように、布のつるす幅も変えてみよう。 <p>4 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カーブの形がうまくできたよ。横にしたときに風を感じるようにしたいな。 ・ 次の時間は、いよいよ液体粘土をつけるのだな。やり直しが効かないから、最後まで試しながらいいカーブの形をつくらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 布から生まれる形に興味をもてるよう、たなびく布や吊られた布の写真を提示し、一瞬の形について感じたことを問いかける。 ○ 具体的な製作の手順が分かるよう、段ボール箱の中で液体粘土を使った布の形の整え方を演示する。 ○ 布の形の面白さから、発想を広げることができるよう、ものにかぶせたり、ものをくるんだり、つるしたり、しばったりするなどの布の扱い方を試す活動を設定する。 ○ 自分や友達の感じ方の違いに気付けるよう、周りの友達に布を持ってもらいながら形を変えるよう促す。 ○ 布の形の面白さや美しさ、形のもつ動きに気付くことができるよう、形を向きを変えて眺めたり、扱い方を変えたりしている子どもを賞賛する。 ○ つくりたい布の作品のイメージが明確になるよう、見付けた形、つくり方やその意図などについて問いかける。 ○ つくりたい布の形になっているかどうかを確かめることができるよう、箱の上からのいたり、箱の側面に穴を開けてのぞき込んだりするよう促す。 ○ 自分のイメージに合った表し方を予想することができるよう、様々な表現を試している子どものつくり方や意図を賞賛する。 <div data-bbox="826 1514 1401 1742" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">布の形の高さや膨らみの変化により、布のつくりだす形の変化を感じながら、布のかぶせ方や傾き等を繰り返し試している。</p> <p style="text-align: center;">< 行動・作品・学習プリント (2) ></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分や友達の作品のよさや美しさ、形の生かし方に気付くことができるよう、感じたことや気付いたことを話し合う時間を確保する。 ○ 次時への見通しがもてるよう、自分の見付けた形や今後の進め方について学習プリントに記述するよう促す。

指導と評価の計画（全4時間）

目標	液体粘土で固めた布の形を見立てたり，形を生かしたりしながら，想像を広げて立体に表す。		
評価規準	(1) 布の形のつくり方を予想しながら，表したいものに合わせて表現方法を工夫している。 (2) 布の形の面白さを感じ取って，つくりたいもののイメージを膨らませている。 (3) 布の形よさや美しさに関心をもって試行錯誤したり，自分らしい見方や感じ方で表現活動に取り組んでいる。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点（☆は研究上の手立て）
であう	2 （本時1/2）	○布のつるし方やかぶせ方を工夫して，気に入った形を見付け，液体粘土に浸して成形し，自分のつくりたい形をつくる。	☆布の形の面白さから，造形的な視点を心得て発想を広げることができるよう，ものにかぶせたり，ものをくんだり，つるしたり，しばったりするなどの布の扱い方を試す活動を設定する。
ひろげる・あらわす	2	○固まった形を様々なものに見立てたり，見付けた形を生かしたりして，向きや置き方，色を工夫して表す。	○友達と自然に交流しながら，つくりたいものに合わせた表現方法を考えることができるよう，活動の段階に合わせて必要な絵の具や用具を集めた材料コーナーを設置する。
		○自分の作品を置く場所を考え展示し，意図を説明したり，友人の説明を聞きながら，作品のよさや工夫について伝え合う。	☆形を見付けることやイメージすることの楽しさを実感できるように，作品に合わせて展示場所を考える活動を設定する。
ふりかえる	布の加工の仕方 		
共通事項	液体粘土で布を固めて見付けた形から，自分のつくりたい彫刻をつくる活動を通して，形や色に自分なりのイメージをもつ。		